

いよいよ年末まであと数日となりました。今年はいつもの年と違って、大震災、大風水害があり 20 年来の円高、デフレ不況も解決出来ない多難な年でありました。

会員の皆様にはこうした悪条件にもめげないで、ご活躍下さり、大過なく年の瀬を迎える事が出来ました。皆様のお蔭と心より感謝を申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、こうした困難な時代には金がない、物がない、時間がないから何も出来ないのではなく、自分達の力でやれるだけやってみようと、祭りや催し等に挑戦した事で、すべてが大成功となり、多くの人々が太く繋がって、人々の心に明るい安堵感を与えてくれました。困難にぶつかり、苦勞して超えた事が知恵を生み、人を育て、絆を太く創る事はいつの時代も同じであります。

今年積み残した沢山の難問題は、来年は厳しく厄介な仕事となって私達を悩ます事と思われませんが、終戦を経験した方はもう少ないと存じますが、敗戦によって 300 万人の人材を失い、東京大空襲により一夜に 10 万人以上の方々が焼死されて焦土化した日本は助けに来てくれる国も人もありませんでした。

頼れるものは何もなかった戦争と言う大戦災の中から、私達の先輩達は立派に立ち上がり、日本人は働きすぎだ! と非難されながら不眠不休で足を運び、腕を磨いて世界一の技術と生産能力を造り出し、世界の経済大国となりました。

消費は美德だと言った美名に、いつしか日本固有の勤勉は美德を捨てたおごりによってデフレ不況を招いたのであります。

何度かこのメッセージに書きましたが、私は年に何回か全国を歩いて参りました。その旅でいつも思うことは、かつて豊かだったと言われた町や村が凋落、枯渇している様を沢山見て参りました。

この繁栄がいつまでも続くといい、社会構造の変化に対応出来なかったからであります。

ここ「君津」はまだまだ潜在能力を沢山持っているすばらしい地域であります。人口が増えないと嘆く声もありますが、今無理をすればせっかく先輩達が作ってくれた資産価値を失う危険性があります。ましてや十年後は現在の住宅数は 3 分の 1 になると日経は予測しております。当分は成長戦略より生存戦略が大切であります。

繰り返しですが、旅の巨人宮本常一氏は「人を呼び寄せたかったら自分達の手であの町に住みたいと言われる箱庭のような街を作りなさい。人は自然と集まり住むものです。花よりも実のなる木を植えなさい」と…。

2020 年には日本はデフレ、少子高齢化問題を解決して、次の時代の先進国となり、再び繁栄を取り戻すと予測されております。

本年は成長よりも、如何に生存するか考えられ、中小零細企業にあっては、夫婦家族仲良く助け合い、後継者を育てる事です。

中小企業の弱点は次の柱となる後継者が育てられないことです。君津はまだまだこれからの市です。

来年もまたもう一頑張りして良い年をと祈念して年末の御挨拶とさせていただきます。